

第2回山ノ内町立適正規模適正配置等審議会 議事要旨

(開催日時・場所・出席者)

日時 令和6年7月12日(金) 午後6時00分～7時40分

場所 山ノ内町文化センター2階学習室

出席者 (委員)

・出席委員 23名

会長 原 隆文 (元小学校長)
副会長 佐藤 重子 (主任児童委員)
宮澤 昭雄 (東小学校PTA会長)
高相 慎吾 (南小学校PTA会長)
中島 学 (西小学校PTA会長)
高相 大作 (志賀高原保育園保護者会長)
小泉 一真 (ほなみ保育園保護者会長) ※代理出席
杉戸 香奈 (よませ保育園保護者会長)
丸山 恵美子 (すがかわ保育園保護者会長)
畔上 三行 (区長会会長・宇木区長)
芦原 喜久司 (区長会副会長・上条区長)
内田 健一 (区長会副会長・穂波温泉区長)
下田 清人 (区長会副会長・須賀川区長)
湯本 文洋 (東小学校長)
中村 まゆみ (南小学校長)
竹内 由紀 (西小学校長)
山口 近 (山ノ内中学校長)
鈴木 隆夫 (町子ども会育成連絡協議会長)
高田 佳久 (町議会議員 社会文教常任委員長)
西澤 誠一 (公募委員)
佐藤 匡則 (公募委員)
田中 晴男 (公募委員)
湯本 市蔵 (公募委員)

(事務局)

山ノ内町教育長 竹内 延彦

山ノ内町教育委員会事務局 教育次長兼こども未来課長 望月 弘樹

山ノ内町教育委員会事務局 こども未来課 学校統合準備係長 山本 敏幸

山ノ内町教育委員会事務局 こども未来課 学校統合準備係 畔上 俊樹

欠席者 (委員)

宮崎 未希 (かえで保育園保護者会長)

傍聴者 6名 報道関係 3社

1. 開会 （望月教育次長）

2. 会長あいさつ （原会長）

- ・第1回の審議会では諮問を受け、小学校統合の在り方について説明を受けたが、委員から質問や意見を聞く時間があまりとれなかったため、本日はできるだけ大勢の方から発言していただきたいと思っている。

3. 報告事項 （説明 学校統合準備係 山本係長）

（1）審議会の役割について

<配布資料1>

- ・小学校適正規模適正配置等審議会と小学校統合準備委員会の組織体制について、役割や審議内容の違いを説明。
- ・小学校適正規模適正配置等審議会は、町立小学校の適正規模、適正配置等を審議するための組織である。
- ・小学校統合準備委員会は町立小学校の統合を円滑に行うため、教育方針や施設整備、通学方法、PTA等に関することを検討し調整を図るための組織である。
- ・構成委員については、大半の方が重複しているため混同されてしまう方もいるが、審議する内容が異なる。
- ・小学校適正規模適正配置等審議会では小学校の適正規模適正配置について検討し、答申を受けた中で教育委員会が統合の方針を決定。その後、小学校統合準備委員会にて、小学校統合に必要な事項の検討、調整を行っていくことになる。

4. 会議事項 （議長 原会長）

- ・山ノ内町立小学校適正規模適正配置等審議会条例第6条により、原隆文会長が議長となる。

（1）小学校統合に向けての適正規模について（説明 学校統合準備係 山本係長）

<配布資料2>

- ①令和9年4月の開校を目指した既存小学校（西小）を活用する3小学校統合案及び山ノ内中学校敷地案での3小学校統合案について、施設の状況や通学方法などを含めて統合すべきかどうかを検討。
 - ②児童数減少に伴う早急な小学校統合に必要性及び段階的な小学校統合の必要性についての検討。
 - ③段階的な統合を行う場合の統合小学校の位置及び開校時期について、活用する小学校の選定及び開校時期の検討。
 - ④小中併設型の学校配置にあたり、小中一貫校や義務教育学校の設置の必要性を検討。
 - ⑤小中併設型の学校整備を目指す場合、統合位置（中学校敷地案又は西部エリア案）及び小中併設型の学校の開校時期を検討。
- ・諮問に基づいて以上の5点について順を追って検討していただき、出された意見内容を整理していただき最終的に答申していただきたい。

(2) 質疑・意見交換等

(原会長)

- ・資料2にある諮問に基づき検討していただきたい事項・課題に沿って、委員から質問や意見を聞いていきたいと思うので、初めに①3校統合案について進めるかどうか発言をしていただきたい。

(委員)

- ・小学校統合の議論について昨年から中学校敷地か西小エリアのいずれかで進んできた中で、前回の審議会では新たに段階的統合案が出てきた。審議会では統合場所を3択で検討するということがよいのか。

⇒(事務局) 基本的な考え方として、従来からの中学校敷地と町長のまちづくりプランの西小エリアのいずれかで検討していくことは変わっていない。ただし、中学校敷地への統合は新校建設までの時間がかかることや、西小へ3校統合になると増築が必要となり通学方法にも課題があり、すぐに3校を1校統合することが難しいため、段階的に統合をしてから将来的に中学校敷地案か西小エリア案のいずれかに1校統合していく考え方なので、3択になったということではない。

(委員)

- ・誰のための小学校統合かと考えれば子どもたちのためであり、子どもや先生たちの意見を取り入れてよりよい教育環境の整備を行っていただきたいと思う。また、できるだけ費用をかけないことがよいと思うので、小学校統合の位置は西小が良いと思う。

(委員)

- ・子どもたちを第一に考えてほしいが、段階的統合は子どもに負担がかかるのではないかと感じる。負担がかからないように十分検討したうえで段階的に統合するということができれば賛成できるので、子どもたちを第一に考慮してほしい。

(委員)

- ・前回の資料にもあった通学区の選択制について教えてほしい。

⇒(事務局) 通学区の選択制は、西小と東小の2校体制になった場合、南小の通学エリアの児童は、東小へ歩いて行ける児童がいることや、東小の通学区で上条地区の児童は西小のほうが近いという面もあり、子どもや保護者にとって通いたい小学校を選択できるようにする。また、西小の通学区の児童も東小に行くことも選択できる。ただし、スクールバスについては、従来の須賀川地区から西小のルートと合わせて、南小の通学区で西小へ通う児童はスクールバスによる通学を考えている。それ以外の通学は徒歩や保護者による送迎をお願いしたい。

(委員)

- ・段階的統合に南小の活用については考えていないのか。

⇒(事務局) 南小の活用は現段階では考えていない。

(委員)

- ・段階的統合案について前の質問と被ってしまうが、子どもたちのことを第一に考えての教育委員会案ということでよいのか。

⇒ (事務局) 小学校統合については、児童数減少による少人数学級の解消をしていくために検討しているが、中学校敷地での統合は新校舎建設に時間がかかり、西小での3校統合は増築が必要であり、通学方法に課題があるため、できるだけ費用をかけず少人数学級を解消する案として、新たに段階的統合案を提示した。段階的統合になった場合でも、子どもたちが小学校在学中に2回統合を経験しないように配慮をし、できるだけ子どもたちに負担がかからないように考えている。

(委員)

- ・段階的統合で東小と西小になったのはどういう理由があるのか。南小が選ばれなかった理由も併せて教えてほしい。

⇒ (事務局) 小学校統合は従来の中学校敷地での検討と併せ、町長のまちづくりプランの提案による西小エリアの2か所で検討している。その中で段階的統合は、できるだけ経費をかけず通学方法など、子どもたちに負担がかからないようスムーズに1校統合を進めていくことを検討したうえで東小と西小にした。

(委員)

- ・段階的統合をした後、小中併設の一貫校として中学校敷地内又は西小エリアに持ってくるという話になっているが、小学校適正規模適正配置等審議会で中学校の統合の話を含めるのは範囲を逸脱していると感じる。個人的な意見になるが、中学校はそのまま小学校と一緒にする必要はないと思っているので、小中併設の一貫校を西小や中学校敷地に持っていくのは反対である。

(委員)

- ・志賀高原の子どもたちは人数が少ないが、朝の通学は7時5分のバスに乗って通学する。朝一番のバスも山の駅発になっておりそのバスを乗せるためには保護者が送迎している状態である。小学校の統合場所により、通学方法が非常に気になるので輸送の面をしっかりと検討してほしい。また、友達が少ないということは、子どもにとって良くないと考えているので小学校統合案については賛成である。

(委員)

- ・大勢の方は地元（自分が卒業した学校）に小学校を持ってくるのが望ましいと思うが、そればかり主張していても統合場所が決まらないので、お互い譲り合いが必要なのではと思う。子どもが少なくなってきた中で、統合していくという考えは大賛成である。

(委員)

- ・小学校の統合については賛成である。

(委員)

- ・児童数が減ってきている中で、しかるべき時期に統合しなくてはならないと感じている。新しい校舎を建設するとしても高額なコストがかかると思うので、町民の方が建設費用も

含め納得する形で、理想とする学校ができるのであればよいと思う。費用をかけずすぐに統合すればよいというものでもないと思うので、納得いく形で議論を進めるべきである。

(委員)

- ・資料2で【答申をしていただきたい内容】の中にある空き施設となる校舎の後利用の方向付けはこの審議会で議論する内容ではないと思う。後利用については別の委員会等で検討していくべきと考える。統合についてしっかり議論をしていくべき。

(委員)

- ・子どもたちのための統合を要望したい。南小、西小は少人数になってきている中で、南小、西小を統合して30人規模のクラスにすることが果たしていいことなのか疑問に思う。南小は全校75人で各学年20人以下のクラスで小規模校になっているが、問題もなく維持できている。むしろ児童全体に目が行き届きやすいので、きめ細かな支援ができ、非常に良い教育環境だと感じている。また、地域とのかかわりも深く子どもたちの成長にいい影響があると感じる。
- ・将来的な児童数の推移を見ても、5～6年先までは全校80人前後規模を維持できているので、段階的な統合をする必要はないと感じている。子どもたちや保護者にも負担がかかりメリットがない。最初から3校を1校統合の方針であれば賛成するが、南小と西小を統合する段階的な統合は反対である。

(委員)

- ・西小は南小より人数が少し多いが似たような教育環境である。今の子どもたちも多様化していく中できめ細やかな対応が求められている状況である。段階的な統合による環境変化は果たしていいのか疑問に感じる。3校統合した場合は60人弱であり、2学級になっても1クラス30人以下になるので、統合するのであれば3校を1校統合が良いと思う。
- ・他市町村の事例で段階的な統合を行った学校で、不登校児童が増えたという実態もあるので、子どもたちの負担は大きかったのではないかと想像できるので慎重に検討してもらいたい。

(委員)

- ・統合については賛成である。いよいよその段階に入ってきたと感じている。東小は1クラス30人規模で、南小、西小よりは大きい学校である。その中で少人数だから手厚い教育ができるというのは疑問に思う。実際に東小は30人規模だけできめ細やかに対応している。
- ・新聞報道で段階的統合案のことが公になったが、その後の町民等からどのような反応があったか教えてほしい。

⇒(事務局) 教育委員会には直接賛否の意見等は聞こえてきていないが、周りの反応を聞く限りでは、小学校を統合していくことについては賛成の意見が多いと感じている。

(委員)

- ・3校を1校統合で中学校敷地へ併設の小中一貫校が良いと考えている。個人的に決定方法は住民投票によるものが良いと思う。

- ・中学校の職員に前回の資料に基づいて小学校統合の意見を聞いたところ、大多数が中学校敷地に小中一貫校の1校統合に賛成であり、小学校と一緒に連携して共に学んでいきたいという気持ちがあることが分かった。
- ・お金のかかる中学校敷地案と早くて安い既存小学校活用統合案を比較するにしても、本当にそれで判断してよいのかわからない。町長のまちづくりプランで西小という話が出てきた際、ソフト事業を充実するという内容があったが、そこにかかるコストが示されていない。また、イニシャルコストだけでなくランニングコストを含めて検討し、住民に示していかないと判断できないのではないかと思う。そのうえで住民投票をして、その結果を尊重したいと思う。

(委員)

- ・小学校統合する位置を審議会で決めるとき、どのように決めるのか
⇒ (原会長) 審議会は決定機関ではない。皆さんからの意見を集約し取りまとめたものを答申し、その答申内容に基づいて教育委員会が決定することになる。

(委員)

- ・小中併設型の一貫校を目指すのであれば、西小へ中学校を移設するより、当初の計画どおり中学校敷地へ小学校建設のほうが良いと思う。

(委員)

- ・小学校の統合は3校1校統合にこだわらず、歩いて通える範囲の2校案が良いと考える。統合場所は西小と南小の2校が良いと考える。小中一貫校は反対である。

(委員)

- ・教育委員会の示されている案の中で、西小に3校統合をお願いしたい。段階的統合案は南小の児童が東小と西小に分かれてしまうようになってしまいが、多くの子が東小に行くとなったら西小に行く子がいるのか疑問に感じるので、子どもたちのことを考えるなら段階的統合案は無理があると思う。
- ・西小案に賛成というのは、費用がかからないことが重要で、いくら補助金等があっても町の予算で20億、30億の費用をかける余裕があるとは思えない。
- ・都会から見れば山ノ内町は統合しても小規模の学校であり、子どもたちは帰ってこないと言っている。だからこそ、小さな小学校でも孫たちが帰ってくるような魅力ある学校づくりを目指してほしい。

(委員)

- ・中学校敷地案は建設費用が掛り、町の財政負担がかかるため難しいと思うので、西小案を軸に南小を活用した2校の段階的統合を行い、将来的な1校統合で西小とするなら、期限を決めて校舎の改築や道路改良を行っていけばよいと思う。

(委員)

- ・理想は3校を1校統合することだと思うが、状況を見ると段階的な統合が良いと思う。場所は、志賀高原の子どもたちが通学の面で負担となるのが、東小は急傾斜地を抱えているので安全面を考えれば、西小と南小を活用した段階的統合が良いと思う。

(委員)

- ・西小の統合案に賛成。東小や南小に通っている方たちからは色々な思いがあると思うが、将来的には西小でよいと思う。

(委員)

- ・中学校の校長先生の発言でもあったように、小中一貫校で小中学校が近くにあることが子どもたちの教育に良いのではないかと考えている。南小と西小の校長先生からは少人数であることについて困っていないという発言があり、学校現場では困っていないという感じを受けたが、保護者からは早く統合してほしいという声も聞こえているので、住民投票を行って判断してもよいのではないかと考える。

(委員)

- ・事務局で新たに提案された段階的統合案（西小と東小を活用した2校体制とし、将来的に小中併設型の一貫校統合）に賛成。

(原会長)

- ・委員全員から統合に関する考えで様々な意見が出されたが、その意見を整理して統合する場所は、どこにしていけばよいか決めていかななくてはならないので発言してほしい。

(委員)

- ・これから統合について議論をするにしても、費用のことが課題になってきていると思う。
 - ①統合をしないとき（3校そのまま）のランニングコスト、改修・建替時期とその費用
 - ②3校を西小へ1校統合した場合の増築費用とランニングコスト、小中併設型の一貫校の建設費用、スクールバスの費用
 - ③中学校敷地へ1校統合する場合の新校舎建設費用とランニングコストやスクールバスの費用
 - ④段階的統合案によるランニングコストやスクールバスの費用、将来的に小中併設型の一貫校建設の時期とその費用

①～④のように費用の比較検討ができるようにした方が住民の方も判断しやすいと思う。その中で、お金をかけてでも整備した方がよいものがあればそれを選択すればよいと思う。
- ・ソフト事業についても費用を試算して提示してもらわないと判断は難しいと思う。パソコン一つあってもソフトが入っていない空っぽのパソコンでは何もできないので、ソフト事業で何をやるかによって費用も大きく変わってくるため、できれば資料として提示してほしい。

(委員)

- ・南小の地域コミュニティ事業の活動を見させてもらい、子どもたちが少人数でも素晴らしい環境だと感じた。それでもこれから子どもたちが成長していく過程で、大人数の中で切磋琢磨していく環境も大事だと感じているので、正直どちらが良いのかということに判断が難しい。

(委員)

- ・中学校長から小中併設型の一貫校が良いという発言があったが、小学校が中学敷地にできた際、いずれ中学校を建て替える時期がきた時、子どもへの影響や負担が大きいと思う。私

は小中一貫校にこだわらなくてもよいと思っている。広い空間でのびのびと中学生が学べる環境がいいと考えるが、小中一貫校が良いと思う理由とお聞きしたい。

⇒（中学校長） 1点目の施設的な面については問題がないと考えている。プールも民間のプールを活用することで、実際に民間への委託費とバスの送迎経費を合わせても、4小中学校のプールの維持管理費用より安価となる。グラウンドも計画案では小学校側に小さなグラウンドがあり、さらに中学校のグラウンドの使用も小学校とのカリキュラムの調整が必要となるが、中学校は200人の生徒で各学年2学級から考えても小学校との併用ができると考える。

2点目の質問については、統合準備委員会でも発言してきた内容であるが、山ノ内町らしい統合というより、今の子どもたちにしてあげたい教育ということ考えたとき、小中学生一緒になって勉強していく姿、共に成長していく姿をイメージしている。小中一貫校はほかでも行われているが、これからの教育は小中共に学んでいく環境が大事である。

（原会長）

- ・ 本日は委員の皆様から様々な意見が聞かれた。それぞれの統合案に賛成の方や反対の方の意見、これからの統合をどのように進めていくべきか、色々な視点での意見が出てきた。次回はもう少し議論を深めていきたいと思う。

9. 連絡事項

- ・ 事務局より連絡事項を説明。

10. 閉会